

事業開始前の様子



クセスワ・ドゥムジャ村は標高 600mの麓から、標高 2,150mの頂上までと高低差の大きいエリアを包括する。



低地エリアでは雨期には稲作が行われる。



高地エリアに居住する先住民族マガル族の子ども達の下校風景。このエリアにはまだ小学校しかない。



家畜の飼料を運搬する高地エリアの住民。乾期には飼料が不足し、ミルクを生産する家畜に栄養が行き届かない。



ニーズを確認するために開催したマガル族住民との集会。女性からは、身近で採取できる飼料へのニーズがあがった。



重要な収入源の 1 つであるミルクの品質を改善するための衛生管理技術や、家畜の疾病対策へのニーズもあがった。



地域の気候風土に適った果樹・野菜品種の選定や、栽培技術を学びたいと意欲を語る男性たち。



野菜は粗放で栽培されており、生産高も低い。



堆肥づくりも粗放で行われており、雨期には栄養素が流れてしまう。



頂上付近を流れる水源を活用した灌漑設備の設置によって、年間を通じて安定した果樹・野菜栽培が可能となるエリア。



先住民族ハユ族、タマン族の住民との集会風景。



粗放で栽培されている柑橘類や柿。果樹の本数を増やす技術やポストハーベスト技術の普及へのニーズがあげられた。